平成23年3月25日の産経新聞特集記事に2月3日に大阪で開催されたメタボリックシンドローム委員会にて、本学島本和明学長の高血圧の予防に関して論じた記事が掲載されました。

メタボリックシンドローム STOP!

大阪で本委員会開催

世界に冠たる健康立国

「メタボリックシンドローム撲滅委員会」の本委員会が２月３日、大阪市北区の大阪国際会議場で開催された。撲滅委発足以来委員長を務める松澤佑次・住友病院院長（日本肥満学会前理事長）をはじめ、委員を務める各学会のトップらが全国から集まり、熱い議論を繰り広げた。松澤委員長は特定健診・保健指導がメタボ（内臓脂肪症候群）との関連で一定の成果が出ていることを指摘したうえで、「世界から評価を受ける健康立国・日本の活動の一翼を担う」と宣言、今後もメタボ撲滅委員会の活動を継続していく考えを強調した。

《出席者》
メタボリックシンドローム撲滅委員会
委員長：松澤佑次　住友病院院長・日本肥満学会前理事長
委　員：北徹　神戸市立医療センター中央市民病院院長
島本和明　札幌医科大学学長
齋藤康　千葉大学学長
渡邊昌　生命科学振興会理事長
実行委員長　宮崎滋　東京逓信病院副院長
＝順不同
司会：坂口至徳・産経新聞社論説委員

札幌医科大学学長　島本和明氏

生活見直し 高血圧予防

いま高血圧症患者は４０００万人といわれ、高血圧になってしまうと薬を使っていかざるを得ない患者が多いです。一方で、正常高値血圧でメタボであるという人に対し、高血圧の発症予防にメタボ対策が極めて重要という認識を私たちは強く持っています。

高血圧の人は、血圧の高さに比例して心血管病の発生率や死亡率が増えていくことは明らかです。高血圧は食塩の過剰摂取が原因として一番大きいといわれていましたが、いまはメタボ型高血圧が増えてきています。高血圧の管理という立場からもこのメタボ対策は重要になってきていることは、いろいろな疫学データが裏付けています。

平成21年の日本高血圧学会のガイドラインでも、初めてメタボをリスクの層別化カテゴリーに入れ、メタボが高血圧と合併した場合、いかに危険であるかということを強調しています。高血圧学会は、メタボ型の高血圧を管理・対策のためには、まず生活習慣の改善を呼びかけています。

しかし、場合によって薬剤治療となってもこの点に留意をして薬を選ぼうという段階に来ています。高リスクの段階に入ったら薬を使う。血圧が１４０～90からではなく、１３０～85からでも高リスクの場合は薬を使っていこうということがガイドラインに盛り込まれています。特定健診・保健指導でも対策を講じていきたいと考えております。

＜しまもと・かずあき＞札幌医科大学第二内科教授、同大学付属病院長などを経て平成22年より現職。日本高血圧学会前理事長。

2011.3.25 産経新聞朝刊掲載
産経新聞社許諾